MRI 拡散強調画像で両側皮質に異常高信号を認め，
経時的変化を評価し得た低血糖脳症の 1 例

門脇 秀 和 1) 山口 修 平 2)

キーワード：低血糖脳症，頭部 MRI 拡散強調画像，高齢者，脳血管障害

要 旨

問診上18時間以上の低血糖状態があったとされる，88歳女性の低血糖脳症を経験した。
搬送時，意識レベルは JCS 300，左上下肢の間代性圧痛を認めた。血糖値は 17 mg/dL，
ブドウ糖 40 g の静脈投与にて血糖は正常化したものので，舌根沈下と意識レベルは改善せず，
入院後16日間の摂管と25日間の抗痙攣剤の投与を必要とした。第17病日には意識レベル
が改善し，抜管を実施，第26病日には経口摂取を開始し，第35病日には完全経口摂取が
可能となった。入院時の頭部 MRI 拡散強調画像で，両側の運動前野を中心に前頭頂皮
質に異常高信号を認めた。第10病日の頭部 MRI では高信号の消失傾向を認め，第30病日
に追跡した頭部 MRI では異常高信号が消失した，

低血糖脳症では，急性期脳血管障害と類似の臨床所見を呈することもあり，本症例のごとく高齢者の意識障害や痙攣の症例では，本疾患の存在を疑って対応する必要がある。

はじめに

低血糖で搬送された症例の中に，頭部 MRI 拡
散強調画像にて異常高信号を認める症例が報告さ
れている 1)。また，低血糖脳症は初診時に，昏
睡・意識障害のみならず，片麻痺のようないわゆる
脳血管障害を示唆する臨床症状も呈することも報告され
ている 2,3)。頭部 MRI の異常所見と低血糖脳症の
予後に関しての考察はなされているが，予後を確
定する因子や画像所見の明確な指標は示されては
いない 4,5)。

今回我々は，両側の大脳皮質に高信号を認めた
症例を経験した。入院時，第10病日および第30病
日に頭部 MRI 所見の経時的変化を評価し得たの
で，報告する。

症 例

88歳女性，右利き。活発な女性で，刺戟や散歩
を趣味としている。肥満症，BMI = 25.6 kg/m²，
高血圧症，リウマチ性多発筋痛症に対して数年来
内服しているプレドニゾロン 7.5 mg によるステ

Hidekazu KADOWAKI et al.
1）鳥津県立病院脳神経外科
2）鳥津大学医学部附属病院内科学第 3
連絡先：〒695-8505 江津市江津町1016-37